

## この身に成りますように

ルカによる福音 1:26-38

(そのとき、)天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

-----

ガブリエル、ナザレ、ヨセフ、エリザベトなどの一般的にはなじみのない固有名詞はありますが、きょうのテキストは初めて読む人にもわかりやすい箇所だとおもいます。ナザレ村のヨセフと婚約中だったマリア(聖母)のもとに天使ガブリエルが現れ、イエスの懐妊を告げるという話です。

いきなりですが、サンタクロースを信じるか？

こう聞かれると多くの人は、子どものころは信じていたけれどいまは信じていないよ、と答えるのではないのでしょうか。

同じような調子でイエス・キリストを信じるか？とか、マリアは処女でイエスを産んだと信じるか？という質問をするのはずるいやり方だと思います。

ヒラヤマって3回口に出して言ってください、「ヒラヤマ、ヒラヤマ、ヒラヤマ」

世界で一番高い山は？ 「ヒマラヤ」 残念でしたエベレストです。

なんかこのひっかけに似ているからです。

テキストに関係ない話をもうひとつだけ。

レットイットビー (Let it be) とレットイットゴー (Let it go)

ビートルズの名曲とアナと雪の女王の主題歌です。タイトルが似ているだけでなく楽曲もけっこう似ています。

英語の専門家によると Let it be と Let it go は直訳するとともに「放っておく」となるそうです。でもアナと雪の女王の歌詞の日本語訳としては「ありのまままで」と訳されています。Let it be のほうは日本語訳の定番がないのでさまざまに訳出されるようですが「放っておく」の直訳ではなくニュアンスとして「ありのまままで」という意味合いで訳されることも多いようです。

そこでやっとテキストに関係してくるのですが

**マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」**そこで、天使は去って行った。 1:38

「この身に成りますように」の英語訳が Let it be to me です。「成りますように」と訳される聖書原文はギリシア語では「ゲノイト genoito」です。ラテン語では「フィアット fiat」英語訳では「Let it be」となります。

さて、天使ガブリエルが現れてマリアにイエス懐妊を告げた。ガブリエルは神の代理として地上に現れマリアに奇跡、処女懐妊を告知する、受胎告知、

これがきょうの聖書テキストの意味内容だとおもいます。

ここでサンタを信じるかと同じ調子でマリアの処女懐妊を信じるかと質問されても返答につまる、詰まらない人もいるかもしれませんが、わたしは困ります。

そこできょうのテキストの38節となります。

**マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」**そこで、天使は去って行った。(新共同訳)

**Then Mary said, "Behold the maidservant of the Lord! Let it be to me according to your word." And the angel departed from her.** (New King James Version)

I 「そこで、天使は去って行った」

ガブリエルはマリアの受諾、はい、わかりました、を訊くために受胎告知に地上に舞い降りた、と解釈することもできます。だとすると神はマリアの承認がなければイエスを地上におくことはできなかつたのか？イエスのことはあきらめたのか？という問いも生まれます。でもそれは愚問でしょう。神は全知全能ですから、思ったことはかならずそのとおりになります。それだとマリアは何を言ってもしかたない、なるようになるさ、という意味あいでは *Let it be* といった、と解釈することもできてしまいます。

II 「お言葉どおり、この身に成りますように」 *Let it be to me according to your word.*

かりに、この英語訳の *Let it be* を *Let it go* に変えてしまうとどうなるのか？英語センスの問題になるので正確なところはわたしにはよくわからないのですが、直感としてやっぱり違うだろうと思います。*Let it go* ではなんか自分の意思が感じられ、それに対して *Let it be* は自分ではなく神の意思の優先がよく表現できているように思えます。

きょうのテキストの最後にあたる 38 節のマリアのことば、これを説明というか理屈をいって理解しよう、理解させようというのは無理な話だとおもいます。プロテスタントはマリア信仰からはなれることでカトリックと分離しました。それはマリアの信仰を否定したわけではなく、マリアを信仰する態度に対してプロテストしたのですが、マリアの信仰と自分の信仰を重ねる、マリアの信仰を模範にすることを否定しているわけではありません。

だからといって、急にガブリエルがやってきてイエス受胎を告げられる、とまどいはあったけれどハイ、わかりましたといって受け入れる、それがマリアの信仰です、あなたたちもマリアに見習いなさい、以上おしまい、これではやっぱり説明不足です。

<知識> にとって最後の課題は、頂を極め、その頂に人々を誘って蒙を開くことではない。頂を極め、その頂から世界を見おろすことでもない。頂を極め、そのまま寂かに<非知> に向って着陸することができればというのが、おおよそ、どんな種類の<知> にとっても最後の課題である。

またややこしいことを言い出しますが、吉本隆明の「最期の親鸞」から引用です。この引用では<知識> となっていますが、信仰と言い換えても意味は通ります。

<信仰> にとって最後の課題は、頂を極め、その頂に人々を誘って蒙を開くことではない。頂を極め、その頂から世界を見おろすことでもない。頂を極め、そのまま寂かに<非知> に向って着陸することができればというのが、おおよそ、どんな種類の<信仰> にとっても最後の課題である。

業を積み、真理を究めた覚者、悟りを開いた人がいるとします、その人が得た救いは真理です。その救いを得た人はどのようにその教えを伝え人々を救いに導くか？

吉本はその方法、導き方を「そのまま寂かに<非知> に向って着陸すること」と、詩的に表現しています。

この吉本の表現を借りると、マリアは自分の身をもって「そのまま寂かにかく非知> に向って着陸すること」つまりマリアの神への信仰を、**この身に成りま**  
**すように Let it be to me、**と天使ガブリエルに告白したのだと思います。

**参考** Let it be の歌詞（冒頭部分）

When I find myself in times of trouble,  
Mother Mary comes to me,  
Speaking words of wisdom, "Let it be."  
And in my hour of darkness (in my darkest hour),  
she is standing right in front of me,  
Speaking words of wisdom, "Let it be."

僕が悲しみの淵に沈んでいると

Mother Mary が現れて

叡智の言葉をくださいました「放っておきなさい」

あたりが暗闇に閉ざされると

Mother Mary が目の前に立ち

叡智の言葉をくださいました「そのままでいいのです」

-----